

大腸手術を受ける患者さまへ

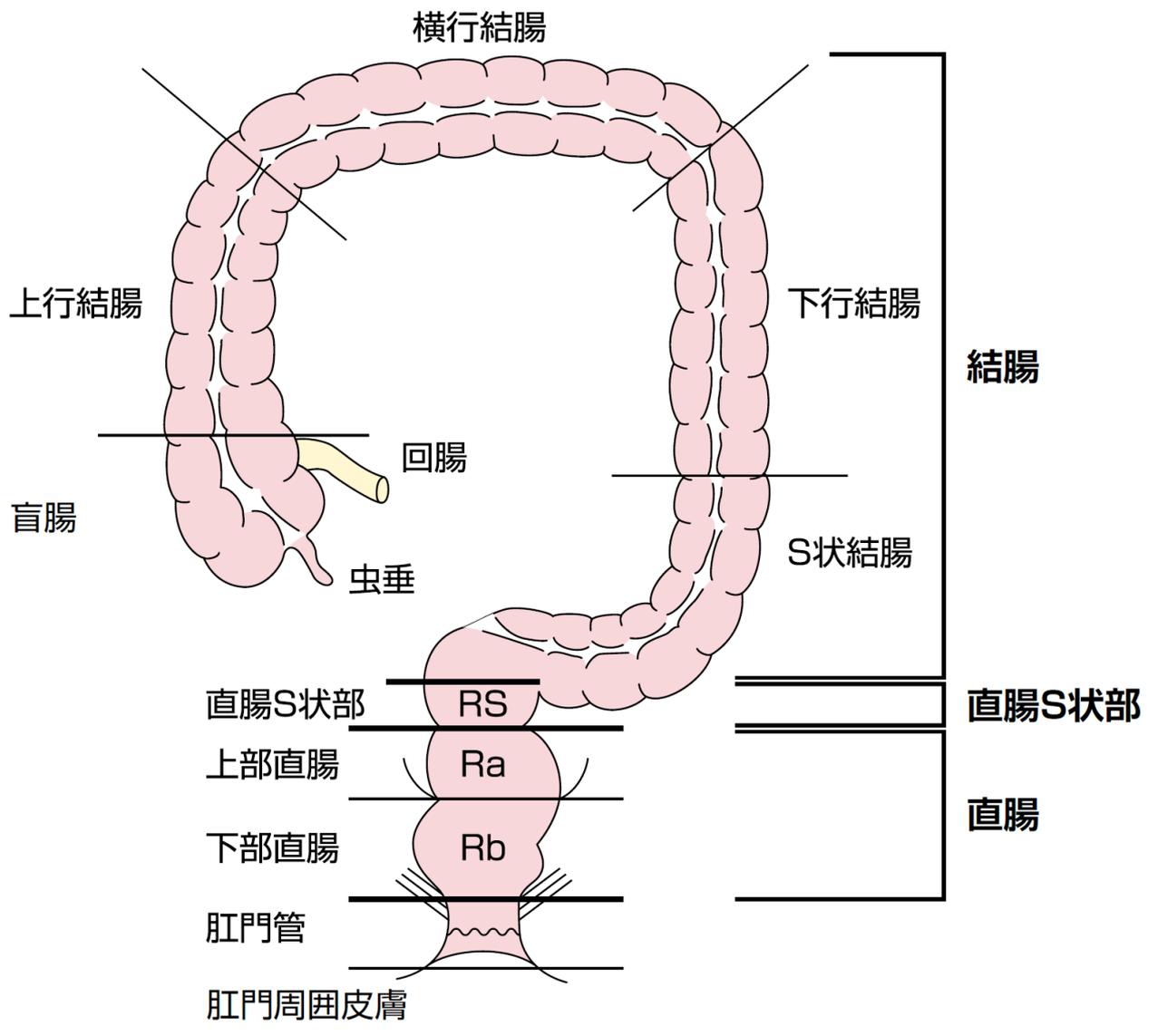
さま

大阪急性期・総合医療センター
消化器外科

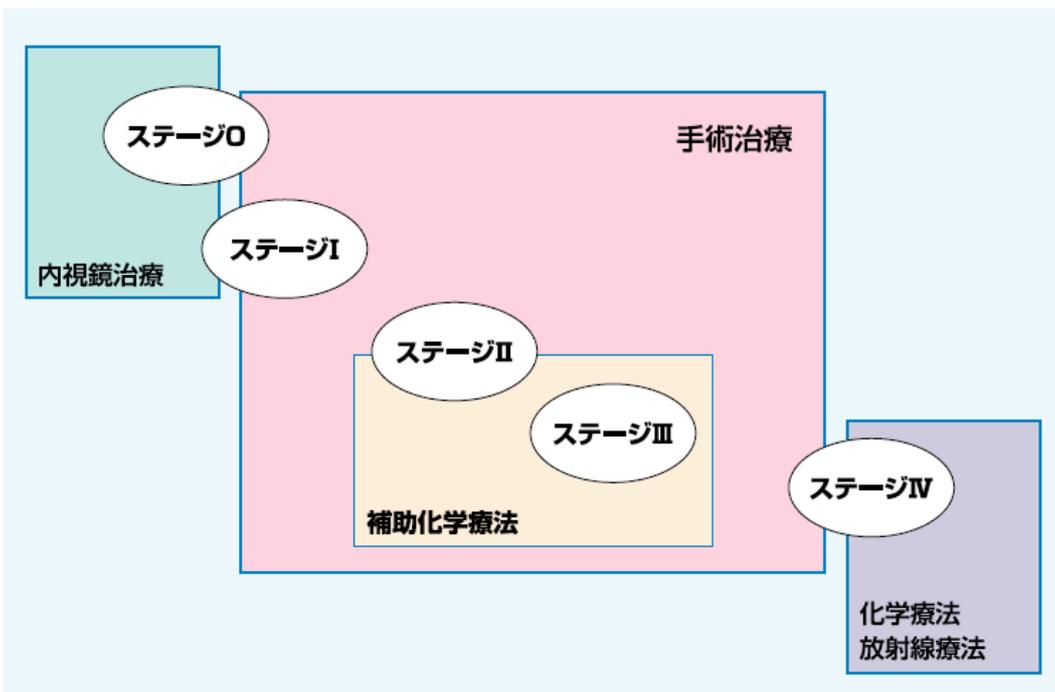
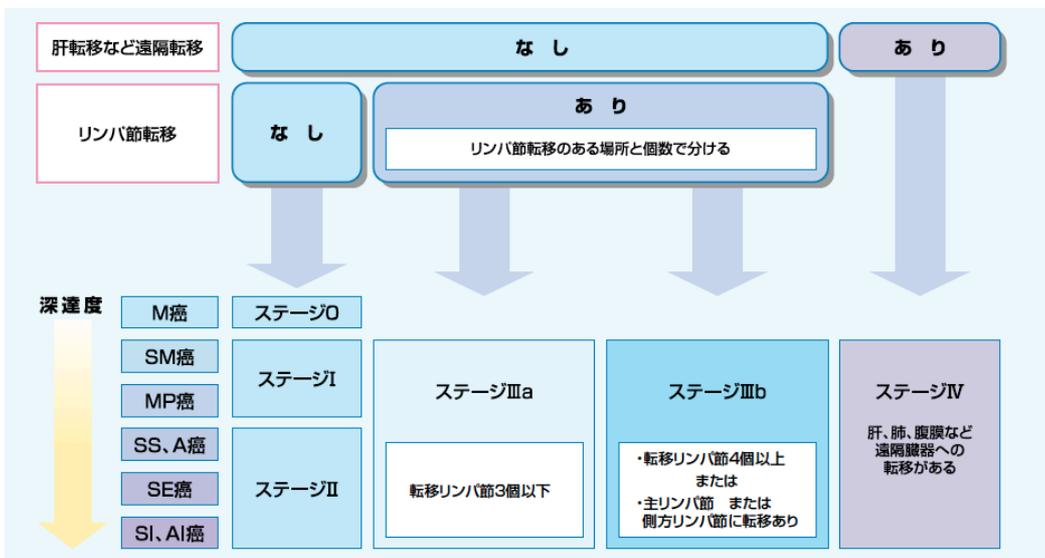
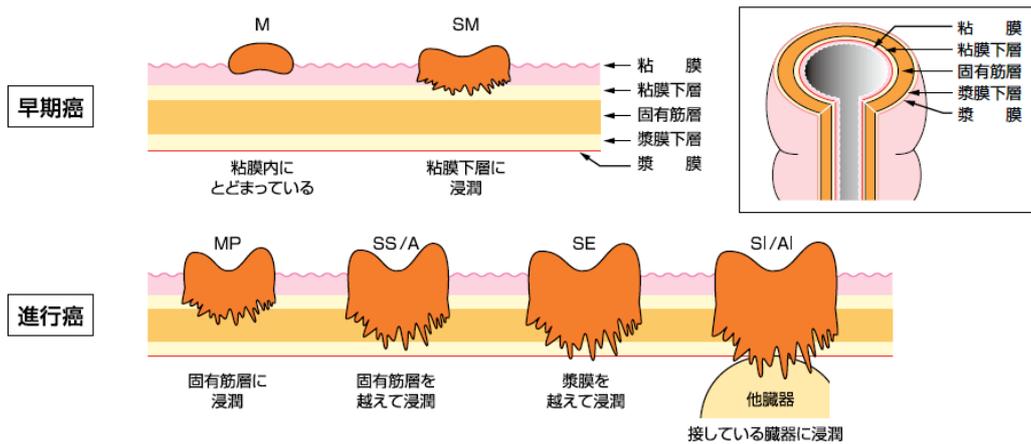
はじめに

大阪急性期・総合医療センターでは、年間180～200人の大腸癌の患者さまが手術を受けています。我々は、最新かつ安全で適切な治療により癌を根治する事を目指しています。そのためには、癌の告知は必要不可欠であると考えております。この病気を全く知らないままに治療（手術）を受ける方が、病気や治療（手術）に対する恐怖を助長し、時には患者さまにとって不利益さえ生じかねません。

これから大腸癌に関する一般的知識、治療方針、手術後の経過さらに退院後の外来通院について説明します。十分御理解して頂いた上で、今回の手術を受けていただければ幸いに思います。



大腸癌の進行度と治療法

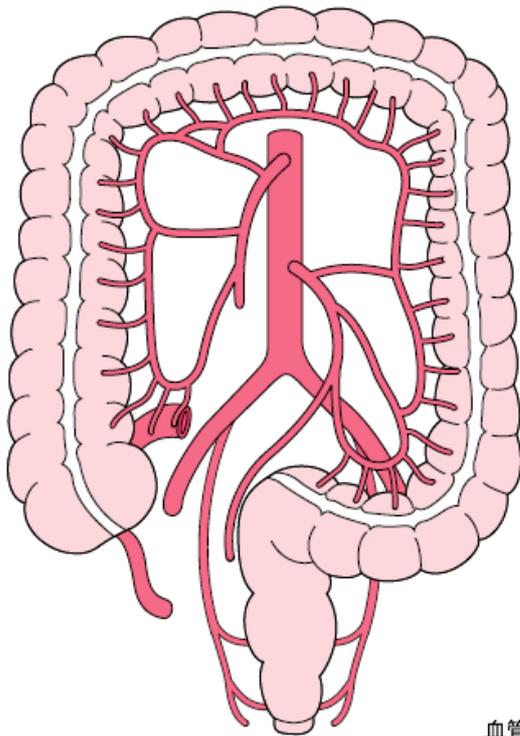


大腸癌の手術

大腸癌の手術は、癌の部分とその周辺のリンパ節と一緒に切除します。当院では、基本的に腹腔鏡下手術を行っております。

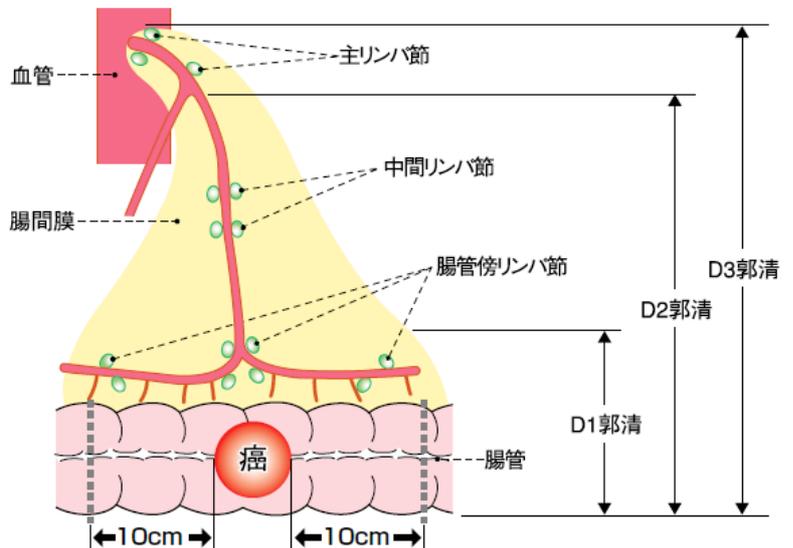
あなたの受けていただく手術は、
() 月 () 日です。

手術日は、() 月 () 日です。



- <結腸癌>
- ・回盲部切除術
 - ・結腸部分切除術
 - ・結腸右半切除術
 - ・結腸左半切除術
 - ・S状結腸切除術

- <直腸S状部癌
直腸癌>
- ・高位前方切除術
 - ・低位前方切除術
 - ・直腸切断術



手術の合併症

手術には、完全に予防することが出来ない危険があります。これらを合併症といいます。大腸癌の手術に際しては、主に以下の6項目があります。

(1) 心臓・肺・麻酔に関する合併症

手術中～術後（数日間）は、心臓や肺に過大な負荷がかかります。心筋梗塞・心不全・不整脈・血栓症（肺や脳の血管が詰まること）や肺炎を起こすことがあります。また、麻酔（全身麻酔）にも様々な薬を使用するため危険性が伴います。

(2) 出血

手術中～術後（数日間）に、出血の可能性がります。

(3) 感染

台帳の中には便があり、同時に大量の細菌も存在します。手術前に下剤できれいにしますが、細菌を完全になくすことはできません。手術に際して、この細菌が増殖して、お腹の中（腹腔内）や創に膿のたまりを作ることがあります。

(4) 縫合不全

大腸のつなぎ合わせ（縫合部）が完全に治癒しない場合があります。大腸は、①壁が薄く、物理的に弱

い。②血の流れが少ない。③細菌が多く、汚い。以上の3つの理由から、他の消化管に比べてつながりにくいと言われていています。特に、低位前方切除術の場合、その頻度は10%程度で、緊急手術で人工肛門をつくる可能性もあります。

(5) 腸閉塞

手術の後、小腸が癒着のために通過障害を起こすことがあります。5～10%の割合で生じ、術後かなりの年月が経過した後でも起こり得ます。その症状は、①お腹が張って、痛い。②嘔気、嘔吐。③おならや便がとまる。以上の3つです。これらの症状があった場合、すぐに受診してください。入院治療が必要です。

(6) 性・排尿機能障害

S状結腸癌や直腸癌の手術の際、癌の根治のため、自律神経を同時に切除する場合があります。この神経を切除すると、男性機能（射精・勃起）や、排尿機能（尿がたまった感覚、尿を出すこと）が障害されます。中には、自己導尿（1日3回程度管を入れて、尿を出す）が必要な場合もあります。

以上に述べた合併症が生じた場合、再手術を必要とすることがありますが、その頻度は低く、必要以上に恐れることはありませんのでご安心ください。

また、合併症によって多臓器不全（心不全、呼吸不全、肝不全、腎不全）に陥り、生命に関する危険性もありますが、その可能性は1%以下です。

手術後の経過

手術後1日目から離床を始めます。肺炎や腸閉塞などの術後合併症を予防するためにも、歩くことは重要です。点滴は5～7日続きますが、食事は術後3～5日目で開始となり、摂取量が増えてくると点滴はなくなります。創部の痛みは約1週間で軽減し、抜糸（1週間目）以降はかなり楽になるはずです。手術後の痛みの強い時期は、薬を使って十分に痛みをとります。

前に述べた合併症が生じなければ、2週間以内で退院する事が可能です。ただし、人工肛門をつくる手術などの手術では、その治療や人工肛門に慣れるため約1ヶ月の入院が必要となります。

化学療法・放射線療法

大腸癌の治療には、手術以外に化学療法や放射線療法があります。手術で切除した癌の性格や広がり方を顕微鏡で検討した結果、予防的な化学療法を行うか否かを決定します。使用する薬が、経口（飲み薬）や点滴などおのこの患者さまで異なります。これらの治療が行われる前に、再度、治療に使用する薬や副作用について説明します。

医学研究について

現在の標準的治療は、これまでの様々な研究によって築き上げられたものです。当院は厚生労働省が指定する「地域がん診療拠点病院」でもあり、さらなる癌治療の成績向上のために、全国の施設と共同して大腸癌の臨床研究を行っています。すぐに役立つものとは限りませんが、将来の大腸癌治療の向上のためには、不可欠であると考えられます。これらの臨床研究を行う場合、前もって担当医から説明および承諾書がありますので、ぜひご協力をお願いします。

退院後の定期検査

退院後は3ヶ月に1度の割合で血液検査を、半年に1度の割合でCT検査を行います。また、大腸内視鏡検査も行います。手術後、5年が経過すれば再発の心配はありません。

また、大腸癌以外の病気で治療を受けてきた人は、退院後も同じ病院で診察・治療を継続して下さい。

さらに、当院での退院後の定期検査は肝臓・肺・大腸を対象としていますので、これ以外の癌検診（胃・乳腺・子宮）は毎年受けるようにしましょう。

	術後経過年月				1年				2年				3年				4年				5年			
	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12	3	6	9	12
結腸・RS癌																								
問診・診察	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
腫瘍マーカー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
胸部CT		●		●		●		●		●		●		○		●		●		○		○		●
腹部CT		●		●		●		●		●		●		○		●		○		●		○		●
大腸内視鏡検査				●				●				●				●				●				●
直腸癌																								
問診・診察	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
腫瘍マーカー	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
直腸指診		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●
腹部CT		●		●		●		●		●		●		○		●		○		●		○		●
腹部・骨盤CT		●		●		●		●		●		●		○		●		○		●		○		●
大腸内視鏡検査				●				●				●				●				●				●

●：pStage I～pStage III大腸癌に行う。

○：pStage III大腸癌に行う。pStage I～pStage II大腸癌では省略してもよい。

退院後の生活について

適度な運動に心がけてください。また、食事は術後1ヶ月ぐらいは消化のいいものを八分目程度にしておきましょう。仕事に関しては、退院後の体調をみながら復職していただいて問題ありません。およその目安であります。多くの方は1~2ヶ月ぐらいで普段の生活ができるようになります。

排便は約半年（3ヶ月~1年）不安定になります。トイレに通う回数が増えて、便が軟らかくなる傾向があります。直腸癌の手術の場合では、排便回数が10回をこえる事もあります。そのような症状は、6ヶ月~1年半ぐらいかけて改善すると言われている。症状によっては、内服薬や外用薬で改善することもありますので、お気軽にご相談ください。

おわりに

われわれ外科スタッフは、すべての患者さまにベストの治療が提供できるように心がけております。わからない事や不安な事がありましたら、遠慮なくご質問ください。皆様が少しでも安心して手術を受けられる事、1日も早くこれまでの生活にもどって頂ける事を望んでいます。